

2017.11.25 地域が描くまちづくりセミナー  
市長あいさつ

市長	<p>改めまして、皆さんこんにちは。 桑名市長の伊藤徳宇でございます。</p> <p>本日は土曜日にも関わらず、地域が描くまちづくりセミナー、開催しましたところ、大変多くの方にご参加を頂きましたことに心から感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>また日頃、桑名市で大変皆様方にお世話になっておることも、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>今日は、地域コミュニティという市政のテーマで言えば、地味なテーマかなと思いますけども、今日は 100 名を超える方にお越し頂いているのかなあと、大変嬉しく思っております。</p> <p>今、桑名が進めている地域創造プロジェクトについて色々思っている方が多いんじゃないかと感じています。</p> <p>私も市長にならせて頂きまして5年経ったところでありますけども、全員参加型市政と言うことで、より多くの方と一緒にまちづくりを進めていこう、そうしないといけないんだと言う事を常々伝えて参りました。</p> <p>その中で色んな、特に先の議会でですね、地域創造プロジェクトの一環としてのまちづくりの形をお示しさせて頂いたところであります。</p> <p>この地域でのまちづくりが大切だと言うのはですね、私は大きく2つ視点があるんじゃないかなというように思っております。</p> <p>1つは皆さんもご存じのようにこの桑名においても、人口減少、少子化、高齢化というものは非常に進んできているということでもあります。</p> <p>地域には、様々な問題があり、様々な課題があって、これをひとつひとつ解決をしていくことがまちづくりにつながる訳でありますけども、昔のように人口が増えて税収が増える、そんな時代であれば、行政がたくさんの税金を投入して様々な職員をその課題解決に人を当てて色んな解決をする。</p> <p>例えば、道路に穴が空いているのを直すとか、児童虐待の人をしっかりと見つけて支援するとか、独居老人の方に対する手厚い支援をすると言うような、行政がしっかりと支援すればいいんじゃないかということが可能だったのが、右肩上がりの時代でありますけど、今後、人口が減り、人口が減ると言う事は税収も下がる。そんな時代になって、果たして市役所が全てその課題解決全部できるのかというのが、非常難しい、そんな時代になってきているんだという風に思います。</p> <p>ただ、その中で、それぞれの地域で暮らす人の暮らしは、ずっと続いていく訳ですね。この暮らしをしっかりと守っていくためには、やはり大切なのはみなさんの支え合いが大事だと言う事でもあります。</p> <p>そういう意味で、この地域が大家族のようにみんなが支え合うような仕組みをしっかりと作って行こう、これが地域によるまちづくり、地域による全員参加型での市政になろうかと思っております。</p>
----	---

こういう大変だという仕組みが1つとですね、もう1つは、まちづくりって楽しいんじゃないのかな、というところの視点があるんじゃないのかなと思います。

確かにいろんな課題解決するというのは大切な事ではありますが、そのためにたくさんの方が集まってくるような、そんな仕掛けも必要なんじゃないかなという事を思っています。

最近、オヤジの会っていう会があるのをご存知の方、いらっしゃいますでしょうか。

PTA を卒業した男性の方たちが、そのまま地元の人たちが仲良くして、会社を退職した後も、地元で仲良くするために、みんなでオヤジの会というのを作っている人たちがいます。

また、こういう人たちのほかにも、子供食堂と言いまして、貧困の子供達がいっつもごはんを食べに来られる様に、ご飯を提供する取組みをしているグループがありますけど、こういう人たちもどっちかと言うと、貧困対策というよりも、地域のコミュニティの場所を作ろうと、コミュニケーションがとれる場所を作ろうといった取組みをしている方たちが居ます。

こういう前向きなと言いますか、地域をもっと楽しくしよう、こんな人たちとですね、これまで地域を担ってきて頂いた自治会の方とか、民生委員の方とか、PTAの方とか、いろんな方がしっかりと連携して、仲良くなって、そしてみんなでこの地域を盛り上げていこうじゃないか。そんな取組みが、これから必要とされているのではないのかなという風に思っています。

そういう意味で、私たちが今進めている「地域創造プロジェクト」について、今日は少しでも皆さんにご理解いただければなあ、という風に思っております。

今日はですね、第1部といたしまして、四日市大学学長の岩崎先生に講演頂き、そのあと、岩崎先生をコーディネータとして名張市桔梗が丘自治連合協議会の坂本さん、それから名張市職員であります地域経営室の係長の梶本さん、それから島根県雲南市の地域振興課の企画官であります板持さん、そして私でのパネルディスカッションという形で進めさせて頂きたいと思っております。

今日のシンポジウムによりまして、みなさんが桑名の地域創造プロジェクト、又は地域が描くまちづくりに対して興味を持って頂き、そして理解が深まり、それぞれの地域のまちづくりに繋げて頂きますことを心よりご祈念申し上げます、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

## 2017.11.25 地域が描くまちづくりセミナー

### 第二部：パネルディスカッション

岩崎先生	<p>これから、みなさんに質問して頂くため、自己紹介を兼ねて、まず初めに市長から一言ずつコメントをいただきます。</p> <p>どういった事をまちづくり協議会に期待しているかについて、少しお話頂けますでしょうか。</p>
桑名市長	<p>まちづくり協議会で、この桑名市を全員参加型市政、みんなでまちづくりする、そんな体制にしていきたいというのが私の思いであります。</p> <p>少子高齢化が進むという事と、そして、やはりこのまちづくりの担い手について、特に自治会を中心に聞いておりますと、やはり、やりたい人が減ってきているのではないかと、やれる人が減っているのではないかと、そういった危機感もあります。</p> <p>その中で、より多くのプレイヤーで、それぞれが暮らす地域のまちづくりを進める。いろんな課題解決を進める。まずは、集まる場所があるのではないかと、一番始めの思いであります。</p> <p>市役所が縦割りだというお声を地域の方々からたくさん頂きます。実際、私もそのように思っています。</p> <p>この縦割りの考え方というのは、まさに右肩上がりの時には、ものすごく上手くいく仕組みで、何か問題が出てきたら、一つ新しい組織を作り、そこで課題解決していきこうって考え方が縦割り組織の最たるものです。この考え方は、伸びていく時には非常にうまくいくのですが、税収が下がる、あるいは人口が減る時には上手くいきません。</p> <p>やはり、今、縦割りをやめて、全体的に考えるようにしようと、市役所でも取り組んでいるところです。</p> <p>地域の方からも、地域ではいろいろな問題が起こっているわけだから、縦割りでは解決出来ないということをよく言われます。</p> <p>しかし、私から言わせて頂くと、地域の中も実は市役所の縦割りにより、縦割りになってしまう部分があるのではないかと思います。</p> <p>民生委員の方であれば、地域の福祉にかかることを色々に対応していただいています。しかし、実はそこが、横の状況を全てご存知かというところという訳ではなかったりします。</p> <p>こういったことをしっかり話し合える場所を作ることで、地域にどのような問題があるのかということ、その地域全体の中で共有し、その中で出来る人が課題を解決していく。また、市役所に繋ぐことで市役所が支援をする。そんな仕組みを作っていきたいというふうに思っています。</p> <p>そういった意味で、まずなくてはならないことは、いろいろなプレイヤーが集まる場所を作り、そのプレイヤー同士がしっかりコミュニケーションが出来て、いろんな課題を解決しよう、そのような形になっていくことが一番大事なのではないかと思っています。</p> <p>まちづくり協議会を地域で作っていくにあたり、地域担当職員を2名配置させ</p>

	<p>て頂き、縦割りではない形で、地域まちづくりを支援する。そのような体制を作って行きたいと考えています。</p> <p>我々もしっかりとサポートをし、また役所がしなくてはならないことはしっかりさせて頂きながら、それぞれの地域のみなさんが暮らしやすい場所をみんなで作る、そんな形の地域を作っていければというふうに思っています。</p> <p>私からは以上です。よろしくお願いします。</p>
岩崎先生	<p>ありがとうございます。</p> <p>プレイヤーが集まる場所として、そしてコミュニケーションを図ると、そういう場所を作って行く、役所がしなければいけないことは当然やるけれども、地域担当職員の皆様にもご苦労頂きながら、地域で課題を共有して解決するような仕組み、それをまちづくり協議会という形で作っていきたいというのが、市長さんの思いの部分でございました。</p> <p>実は、三重県内で言いますと、これからお話を頂きます名張市さん、このまちづくり協議会という仕組みをかなり早い時期から着手されています。</p> <p>その中心で色々教えて頂いたのが梶本さんでありまして、その導入にあたって、あるいは、現状というものを、まずは市の職員の立場として少しお話頂けますでしょうか。お願いします。</p>
梶本さん	<p>名張市の梶本と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>名張市は、昭和29年に市政が発足してから住宅開発が進み、一時は当時3万人の人口から平成12年には8万5千人まで人口が増加したところではございますが、それをピークに、人口減少の一途を辿っているというのが現状でございます。そんな中で平成7年ごろから自発的なまちづくり活動される方々が増えてきて、また組織化し、また企画作りなど、さまざまな地域の方での活動という事が増えてきました。</p> <p>そのような中で、財政非常事態宣言を発令し、住民投票の末、合併をせずに単独市の道を選ぶということを皮切りに、市といたしましても平成15年4月には「まちづくりを自ら考えて自ら行う」ということを目指した住民が自主的にまちづくりを推進するための行政支援といたしまして、『ゆめづくり予算制度』を創設することになりました。</p> <p>これは、市民センター、おおむね小学校区単位の地域づくり組織に対して市から用途自由な交付金をお渡しするという制度でございます。</p> <p>今までは補助金という形で各方面の、例えば老人会であったり、PTA、婦人会という形でそれぞれお渡ししていた補助金をすべて廃止いたしまして、小学校単位の地域づくり組織宛てに交付金をお渡しする、そういった活動がH15年から進んでいるところでございます。</p> <p>そのような中で名張市は今まで公共は行政のみが独占的に行うという考え方だったところではございますが、それを改めまして、地域コミュニティ、また、それぞれの団体の方と、行政が協働し公共を担うという考え方へ見直したところでございます。</p> <p>そういうところから、今までのやり方では対応できなかった領域や内容のサー</p>

	<p>ビスが提供することが可能になってきたと感じております。</p> <p>そういう中で実際にさまざまな行政では成し得ることの出来なかったまちづくりの取り組みという活動がたくさんに盛んに行っているところではあります。今日はそういった活動の先駆者である桔梗が丘の坂本さんに来て頂いておりますので、内容等については坂本さんのほうにバトンタッチをさせて頂きたいと思っております。以上です。</p>
<p>岩崎先生</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今お話しいただいた段階のような状況を、今、桑名市は頑張っているところと見ています。しかし、何も桑名市は名張市の後塵を拝する訳ではないということです。</p> <p>桑名市については先ほど市長さんのご挨拶があったように、危機的な状況というのは、すぐそこにはあると私自身は思っておりますけれども、ただそこに至るまでの間には、まだもう少し時間はあるのではないかと考えています。</p> <p>名張市もよくお伺いしました。ただ、名張の場合には、やはり平成10年の人口8万人からずっと減り始めるという状況は、かなり苦しいものがありましたし、住宅地というのは戸建ての住宅地の空き家が目立つような状況になりつつあります。</p> <p>名張は先駆的な取り組みはされているけれど、その後追いを桑名がしている訳ではなくて、桑名は桑名流でこれからやっていくのだと、ただ、大きな参考にはなるんだろうということでありまして、そういう意味で、これから桔梗が丘の住宅地で、さまざまな形でまちづくりの協議会活動をされている坂本さんに住民の立場としてどのような苦労があったのか、というようなこともお話しさせていただきたいと思っております。</p>
<p>坂本さん</p>	<p>桔梗が丘のことについて、お話しさせていただきます。</p> <p>今、市役所の梶本さんから話をしてもらったのですが、名張市にはまち協（まちづくり協議会）が15あります。その中の一つが桔梗が丘であります。</p> <p>私たちの住んでいる桔梗が丘というところは人口が1万4千人、世帯数で言うと5,600くらいの大きさです。</p> <p>ここは昭和40年に造成して始まったところで、第一世代の人はかなり高齢になられている、そんな場所です。高齢化率は29%。</p> <p>ところが初期に入られたところと、最近また新たに開発されたところがありますので、その中で24自治会がありますが、かなり高齢化が進んでいるところと、そうでないところがあります。地区に小学校が3校、中学校が1校あります。</p> <p>私自身、今60歳と4か月で、今現在は退職しております。</p> <p>仕事をしながらボランティア活動をして、もう20年ぐらいになります。地域と小学校を繋ぐということで、子供たちの体験学習をやることを平成10年に始めました。そのようなことをやりつつ、まちづくり協議会、桔梗が丘、歴史は古く、平成11年から始まっていますが、そこに呼ばれて、先ほど、梶本さんが言われたように、「ゆめづくり地域予算制度」ということで、ようやく市</p>

の方から正式に予算を頂いてやるということになりました。

しかし、その時点で、私は仕事もしていますし、他のボランティアもやっていたので、本格的には入れなかったのですが、代議員制度というのがあり、総会で事業評価をする制度ですが、各自治会から1～2人選ばれるということで、代議員として参加しました。その会議の中でいろいろ質問して、いろいろ提案したこともあり、執行部から本格的に参加するようにお誘いをいただいたので、この桔梗が丘自治連合協議会に名前を変えた平成21年から本格的に私がこのまちづくりに取り組んできたところです。

そこで、まず何をやったかということ、名張市地域づくり組織条例を根拠にそれぞれのまちづくり協議会で「地域ビジョン」を作るということでした。

その地域ビジョンをベースに名張市から交付金が交付されるという仕組みです。市内の15か所が、みんな自分達で地域ビジョンを作ろうということになりました。

「地域ビジョンっていうのは何か？」というと、「私たちの町は10年後こんな町でありたい、こんな町にしたいね。」といったターゲット、目標、理念みたいなものです。それを作って、その中でこういう組織を作り、こんな活動をしていきましょう、という設計図みたいなものなのです。

じゃあ、みんなでやろうということで、一斉に作るのですが、桔梗が丘には、なかなかこだわりの強い人が多くて、「市役所が作るひな形では嫌だ」、「よその真似は嫌だ」ということで、「じゃあ、自分たちでゼロから作りましょう」ということになりました。しかし、結構これが大変だったことを記憶しています。桔梗が丘地区はビジョン作成に取り掛かったのは一番早かったのですが、完成したのが最後でした。

一年半ほどかけて地域ビジョンっていうのを作りました。

その時のおもなメンバーっていうか、仕切りをさせてもらったのが私です。なんと一年半かけまして、会議は50回程やりました。50回くらいの会議で、のべ100時間くらいかけてビジョンっていうのを作っているんです。そんなことをやってね、ここに『桔梗が丘ホットまち構想』という、こういう本があるんですが、これ一冊作ったんです。この中に「どういう町にしていこう」ということをずっと書いてあるんです。

その為に、アンケート調査したり、いろいろワークショップをやったり、岩崎先生にも来て頂いたり、四日市大学の松井先生に来て頂いたり、そんな事をやって来ました。

それで、いろいろ活動をしているんですけども、その途中でいろいろなことが起こりまして、怒られたり、いろいろありました。

いろいろ事業としてやっているんですけども、その中でやっていることというのは、「お助けセンター」であったり、「ふれあいサボ」(コミュニティカフェ)、それから環境整備であるとか、そういったことをやっているんですけど、今の課題としては、今まで実はそういう歴史があるもんですから、前からやってきた人たちの仕事と新しくプロジェクトでこうやろう、いろいろありましてね。

	<p>同じような事を違う部会、プロジェクトチームでやっている。</p> <p>例えば、教育文化部会っていうのがありまして、そこは子供たちの体験学習をやってくれているんですが、一方で子供たちと「地域の絆づくり事業」というのをやっているんです。</p> <p>そこも、また体験学習しているんです。</p> <p>それって同じようなことをやってない？みたいなところがあって、効率悪いんじゃないかっていうことみたいなことが徐々に出てきているんです。それをもうちょっと上手いこと、やっていきたいねっていう話しをしています。</p> <p>それから、後継者の問題。みんなやっている人達の年齢っていうと、私が一番若くて、だいたい65～79歳までの、だいたいその辺りの人が関わってくれている人ですよ。150人くらい。その人たちがメインなんです。じゃあ、このあと大変やな、若い人を呼ばないかなと。</p> <p>後継者をどうしようっていう話が課題であったりします。</p> <p>それから「よかったなあ」と思うところもあります。</p> <p>それは、さっき市長さんがまさにおっしゃってくれたんですけど、楽しいと思う。みんなで汗をかいたら楽しい。みんなで芋ほりやったり、荒れ地を掻い込みして畑にするんです。しんどいです。大変ですけど、汗かいた後、「よかったなあ！」、そこで初めて獲れたジャガイモ、「うわ、ええなあ！」って。</p> <p>これはまさに大人の部活動みたいな感じです。私、感じているんですが、そうすることによって、お互いコミュニケーションが出来て、健康で長生きできると。要するに健康寿命が延びるということです。そういったことにもつながるのかなあと思います。</p> <p>そういうことをどんどん話もさせて頂いて、後継の若い人にも入って頂きたいなというような事を最近あちこちで喋らせて頂いています。</p> <p>あと、またご質問とか頂いたら、苦労話、失敗談、いっぱいあるので、また聞いて下さい。じゃあ、これでマイクをお返しします。ありがとうございます。</p>
<p>岩崎先生</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>まち協（まちづくり協議会）の、この中で言うと、本当に一番いろいろなことを経験してらっしゃる坂本さんですから、今日、私も久しぶりにすごいお話をお伺いして、改めて学生諸君の前で最後の授業に喋ってもらおうかなというふうには思って聞いていました。</p> <p>後継者がなかなかいないってこと、それから若い人に入って欲しいってことを、今、多くのところでも、まだまだ課題であります。私は、だからこそ、小学校への支援、PTAと一緒にやることっていうのは、ひとつ大きなPTA活動やっていたお母さんお父さん達が次に地域活動に目覚めるまでの30年間のブランクが出てしまうというこの状況をなんとかしないといけないと常々思っています。だからこそ、コミュニティスクール、小学校への支援、地域支援っていうことが非常に重要なことというふうに思っています。</p> <p>それからもう1点、今、まちづくり協議会を作ったんだけど、同じようなことを他の部会もプロジェクトでやっている。これはもう本当に日本人の性み</p>

	<p>たいなものなんですね。</p> <p>日本人はやっぱり決められたことはきっちりやるんです。決められたことはきっちりやるんだけど、その他のことはやらない。だからね、やっぱり縦割りってというのは、すごく日本人の感性にあっているのかもしれないですね。だから、常に縦割りになってないかっていう、不断の見直したいなものは、これはまちづくり協議会を結成したときに絶対いるんだろなあというふうにお話を聞きながらお伺いしました。</p> <p>さて、最後ではありますけど、そんな中、全国的に見ても、早いうちからまちづくり協議会、地域協議会を立ち上げてらっしゃいました、島根県雲南市から板持さんに来て頂きました。</p> <p>板持さんは、全国のこういった地域自治組織のネットワークっていうのが出来つつあるわけでありまして、それを作ろうとしている自治体です。その事務局を担いながら、全国のさまざまなところでお話をされているわけでありまして、雲南の取り組みとともに、今、全国的な状況とはどういうふうな状況になっているのかということも、自己紹介も含めて、少々お話頂ければと思います。よろしくお願いします。</p>
板持さん	<p>島根県の雲南市から参りました、板持と申します。</p> <p>雲南市もですね、地域自治組織という名前で、市内で合計30のいわゆる住民組織がございます。おおむね小学校区程度の区域でございます。</p> <p>人口は4万人くらいの小さな街なんですけども、そうした中で30もあるのかとよく言われます。人口は少ないんですけども、土地はたくさんございまして、区域が非常に広いです。</p> <p>組織が出来ましたのは、きっかけは市町村合併です。平成の大合併で6つの町が合併をいたしましたので、それを機に組織を作りましょうということになったんですけど、どうして合併する時に、そんなことをしたかと言いますと、やはり一番大きな理由は人口減と高齢化です。</p> <p>よく人口減って言うんですけど、人口減と言う要素より、おそらく高齢化という部分が非常に大きな部分かなと思っていました。</p> <p>私も当時、合併協議をする時に、いわゆるプロジェクトチームを作りまして、私は当時、合併前の市の職員として、そのチームに加わって議論をしましたが、当時ですね、人口も減ってきて高齢化率も、もうかなり高くなってきていましたので、これからの状態の中でこのまちを担っていくにはどうしたらいいのかということを議論した結果、「自分たちのまちは自分達でつくる」と。自分達というのは、市民ひとりひとりが活躍できるという形をとらないといけないだろうと。これがいわゆる『協働』といわれる部分なんですけども、その為にも活動ができる主体を形成していかないといけないということで構想を練りまして、シナリオを描いて、合併をしてからすぐに住民の方々に呼びかけをさせて頂いて結成をしましょうということになりました。</p> <p>これは行政の方から、どちらかというと呼びかけさせて頂いて、まずは準備委員会を各自地域に作って頂きました。比較的短期間ではあるのですが、私はそ</p>

の当時は職員という立場ではなく、と言うよりも、その当該地域の自分が住んでいるところの地域のいち事務局員として、つまり市民の立場として組織化というところに関わっていたんですけども、ほぼゼロベースから考えましたので、逆に言うと非常に面白かったです。

と言いますのが、行政の方からは基本的なモデル、例えば、事務局があって部会があって言う基本的なモデルは示されてはいましたけども、私たちの部会というのは、どんな部会があったらいいのか、あるいは、役員会はどういった構成にすればいいのか、総会はこういったふうにすればいいのか、議決はどうしたらいいのか、とかですね、あるいは名前ですね、組織の名前はどんな名前がいいのかってということもいろいろ考えまして、住民の方々の投票によりましょうか、なんていうことを考えてとかですね。新たにものを作っていくことが特別縛られるわけではなくて、自分たちの発想で自分達がやりやすいように出来ましたので、そういった点はとても非常に面白かったなって言う事を思います。

雲南市の話に戻りますと、組織という部分と、もうひとつは組織があれば拠点施設というものが重要でありまして、公民館を交流センターという名前に転換して、そこを地域組織の拠点施設に変えたというのが特徴です。

交流センターという名前にしましたのは、交流という部分に意味がありまして、人口が減ってきて、あるいは高齢化率が高くなって参りますと、人と人の会話密度、あるいは人と人の交流密度っていうのが、かなり低下していきますので、人と人が交わる場所がないといけない、そういう部分で交流センターという名前をつけております。

基本的な活動としては、自由に活動できるんですけども、ただ、大きな柱を設けています。

ひとつは地域づくり関係。

もうひとつは生涯学習関係です。

もうひとつは地域福祉関係です。

この3つはどこでもやりましょうということ呼びかけしていただいているという状況であります。

10年ちょっとたったんですけど、だいたい軌道にのったなと思いましたが、早いところで3年ぐらいです。全体的にはだいたい5年ぐらいでだいたい軌道にのってきたなっていう段階で、今10年ぐらい経ちましたけど、10年ぐらいも経ちますと、また、次へ向かっての課題ということも当然ながら出てきています。そうしたところに我々は、今どうしたらいいのかということを考えるという状況でございます。

雲南市の場合はたまたま合併というきっかけであったんですけど、これが仮に合併しなかった場合、どうなったかという事を考えましたら、これはやっぱりないといけなかつたろうなというふうに、今振り返ってみましても思います。

例えば、島根県内では、まだこうした仕組みを採っているところというのは、

	<p>実は非常に少ないです。隣接しているところの自治体など見てみましても、その仕組みをとってないところを見ましたら、非常にもったいないなって、私の方から見ますと思います。</p> <p>それは、どんな事がと言いますと、各地域に埋もれている資源、素晴らしい資源があるのに、それが生かしきれてないなと思います。</p> <p>ですから行政ばかりに頼るってあんまりよくないなと反面教師的の思うことがよくございます。</p> <p>全国的な調整というところからいきますと、名張市さんもそうなんですけども、最近こういったような視察がかなり多いです。北海道から沖縄までとはいきませんが、北海道から九州の一番南まで、ほぼ毎日と言ってもいいぐらい視察がございまして、それぐらい関心が高いってことでありまして、今、ネットワークと言うところで、各自治体を中心に全国の横断的な組織を作っています。平成27年2月に結成をしまして、最初は140程度の会員数だったのが、今は275を超えていまして、徐々に徐々に多くなっています。拡大しています。こうした状況も踏まえて国の方でも、ようやくこういった仕組みに着目していきまして、以前はこんなことはあまり見向きもされてなかったんですけども、今は国としても組織の数はこれぐらいに持っていかないとイケないだろうといったことですか、あるいは拠点の数はこれぐらいに持っていった方がいいんじゃないかということも国全体の方針として定められていますので、国全体としては非常に良い方向にいつているのかなってことを私共では感じております。</p> <p>簡単ですけど、ひとまずこんなところですよ。</p>
岩崎先生	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>今、板持さんからのお話で言うと、なんやかんや言ったってまち協（まちづくり協議会）というような組織を作って、それが軌道に乗るって言うのは早くて3年、全体で言うとだいたい5年ぐらいは、やっぱり着手してからかかるものだという事を1点、それはそうだろうなあとと思いながら聞いていたということと、それから、そういうことに取り組もうとする自治体が140自治体から270でしたか、全国1700の自治体のうちの270ですから、かなりの数までがそういうことを今取り組もうと思って動き始めている状況。</p> <p>そして国の方も、私が講演の中で申し上げたように、包括ケアシステムだってコミュニティスクールだって、これは自治体がやろう、あるいは国がやろうというだけでなく、その地域できっちりと包括ケア、総合生活支援事業だとか小学校を支援する仕組みっていうものを地域の住民が準備していることによって、そこに対しての支援ができるというのが国の政策の動きでありますから、私はそう意味でいうと国も着目して、言ってみれば、これからいろんな形で支援を、国がやることって、たいがい金を出すことだけなんですけど、金は出してくれるだろうと思います。</p> <p>しかし、それを使って、まさに孫とかひ孫の代まで存続させる。それが、われわれの責務なのではないかと。</p>

	<p>強引に私の方の話に結び付ければ国の着目というのは、そういう事が言えるんじゃないかなと言うふうに思っています。さて、四人の方にそれぞれの自己紹介を兼ねてお話を頂きました。</p> <p>みなさんどうぞ質問票にいろんなご質問を書いて頂ければと思います。一旦休憩に入りたいと思います。</p> <p>休憩中に質問用紙は回収させていただきます。</p> <p>一旦休憩させていただきます。</p>
岩崎先生	<p>いかがでしょうか。みなさん書いて頂きましたでしょうか。</p> <p>是非、ご質問くださいと言いましたので、非常にたくさんのご質問を頂きました。おそらく会場にお集まりの方々、ほとんどの方々が1問以上の質問を書いて頂いたのではないかなと思います。これは、桑名市の地域コミュニティ課の方とお約束させて頂きましたとおり、本日これから、時間が許す限り、いただいた質問をベースにしてみんなで語り合いたいと思います。</p> <p>しかし、時間切れで回答できなかったことについては、市のホームページを通じてその1つ1つについて、市としてのお考えを示させて頂くということをお約束できると思っております。</p> <p>今日これから限られた時間のシンポジウムの中で回答がなかったからといって、自分の言ったことが無視されたという風にはお考えにならないようお願いしたいと思います。</p> <p>質問票について、今まだ全部に目を通していませんが、今日お集まりの皆様が今後まちづくり協議会というものを作っていくときに、「色々苦勞があるんじゃないか」という事に質問がある程度集中しております。</p> <p>名張市の坂本さん、梶本さん、雲南市の板持さんに何か伺えることがあれば教えて頂きたいと思います。</p> <p>一番集まりにくいのが「人」だと。自治会の会長はほとんどクジ引きによる選出であって、自治会を中心としたまちづくりは少々困難に見えますけれども、まち協のスタッフを作っていくにはどういう進め方がいいと思いますか、という事を筒尾地区にお住いの方から頂いています。先程、講演にもありましたが、今この時間にテレビ観て過ごしている方々を地域活動にどのように引っ張ってくるか、という男性の方のご意見もあります。</p> <p>それらについて何かお考えの部分というのはありますでしょうか？どうでしょう。坂本さん、かなりその辺りはご苦勞されているかと思うのですが。</p>
坂本さん	<p>最初の頃はね、元々、さっきも話させてもらったんですけど、幸いまちづくり協議会の時代から、まちづくり委員会という時代を経てきているんですよ。</p> <p>それぞれ24自治会もある。自治会長さんを名張では区長と呼んでいるんですけど、そんな人たちもいる。色々活動してもらっている民生児童委員さんや子供会の人たちもいる。ということで、さっき言った地域ビジョンと言うのを作る前に強制的に動員をかけて、この人たちに寄ってもらって話してもらい、ワークショップをやったんですよ。ワールドカフェスタイルみたいな。</p> <p>公民館で、5、6人ずつチームになって、課題とかいろいろな話をしてもらおう。</p>

	<p>先に岩崎先生や松井先生に講演してもらって。</p> <p>そこで、その話を聞いてもらった後で、グループディスカッションしてもらおう。そうしたら、人間って、特に日本人ってそうだと思うんですけど、大勢の前で話をするって、なかなか出来ないんですけど、5人くらいの中だったら同じテーブル囲んで、初めましての人であっても結構話が出てくるもんでしてね。そういうところから、話をしていって顔を繋いでいったんです。</p> <p>とにかく知り合いを増やす、顔を繋ぐ、そういうことから地道にコツコツやってきました。それから、幸い元々その自治会への区長会っていうのがありましてね、それがあつのに協議会を作ろうとしていますから、なかなか難しかったです。しかし、その自治会長、区長さんになぜやらなければならないのか、趣旨をわかってもらったら、そこから人を出してもらえるようになるんですよ。こんなことをやらなアカン。こんな背景があるから協議会を作らなアカンと。だから、ふさわしい人出してよ、という事で、区長さん達に人を出してもらおう。では、区長さん達は どうやって人を見つけてくるのかと。</p> <p>これはそれぞれのところで工夫がありまして、あるところでは、防犯パトロールをみんなでしよう。それから、子供達の朝の横断歩道の旗持ちとか皆さんやっておられるかと思えます。そんなところで顔繋いでいって、組織を作っていくんですよ。子供たちを守る何々っていって。</p> <p>パトロール隊とか作っていって、それぞれの自治会長さんが地域からそういう人を、さっきの話じゃないけれど、テレビを観て過ごしている人を引っ張ってくるんです。そんな中でこの人めばしい人やって、協議会の方に紹介いただく。そんなことがあつたかなと言うふうに思います。</p> <p>そんなことがひとつの例かなと思います。</p>
岩崎先生	<p>はい、同じような質問として、まずは梶本さんも何かお気づきのことがあればだけでも。特に昔から住んでいる人・・・</p> <p>もう一度坂本さんにお伺いしたいのは桔梗が丘もその周辺にもあるんですか古く集落というのは。桔梗が丘はないんだっけ？</p>
坂本さん	<p>桔梗が丘はね、全部新住民。元々、あの土地って山やったんですよ。だれも住んでいない。</p>
岩崎先生	<p>そうすると、これは梶本さんに聞いた方がいいのかな。</p> <p>桑名でもそうなんだけど、昔から住んでいる人と新しく引っ越してきた人、その人たちが地域のことで情報共有ができて協力が上手くできるんだろうか。それが名張市の場合は出来ているんですか？というふうなお尋ねも頂いているんですけど、その点はいかがでしょうね。</p>
梶本さん	<p>名張市の中では桔梗が丘みたい新興住宅地のみのところ、また古くからの農村部のところ、また混ざつた地域っていうのが混在しているような15の地域づくり組織ではあるんですけども、なかなかその混ざつているところっていうのは課題ではあるところでありまして。</p> <p>ただ、農村部とかであれば、伝統的な事業とかそういうことを上手くイベント化、始まりはイベントかもしれないけども、そのイベント活動を新しい団地の</p>

	<p>方にも参加してもらおう。そういった交流の中で、上手くコミュニティというのか、人との人脈を繋げていくという様な活動をしているような感じがしますね。上手く、田舎であれば田舎の文化を新しい団地に伝えるという様な、そんなところを上手く関わるような事業を考えて頂いているところでございます。</p>
岩崎先生	<p>上手く交流できるような事業を、まず考える。ないしは、地元の人がずっとやっていることに、地元の人でも固執せずに新しい人を受け入れる。新しい人も、地元の方に入って頂くような、そういうことを具体的に考えてきた。そういうことになるんでしょうかね、なるほど。</p> <p>板持さんにもお話があるんですけど、じゃあ、そういう時にどういうふうな市としての動きをされたんですか？ということをご質問頂いてますけど、その点いかがでしょうか？</p>
板持さん	<p>市としてっていうことで見ますと、できるだけ地域内のあらゆる団体が加わるのが重要ですよってことで、これはだいたいどこも同じなんですけど、あらゆる団体、例えば若い方の関わりという点でいきますと、PTA というのは、繋がりが非常に強いので、PTA という名前が表に出ますと、その組織力を活かして出ていただきやすくなります。</p> <p>もうひとつ比較的若い世代が出るってことがあります。いろんなグループが地域内にありますので、女性の何々会とか、そういったあらゆる団体を巻き込んで、農業委員さんとか、民生委員さんなども含めまして、地域の中で何らかの活動をされている方にできるだけって入って頂くということで呼びかけさせて頂きました。</p> <p>準備の段階の時には、濃密に話しを進めていかないといけないので、人数が多くなると大変ということから、その中の代表的な方々に集まって頂いて、そこで話し合いを重ねて頂きました。その内容をまた各団体にフィードバックして頂き、その中の団体の中で話していただいて、また全体の場に持ち寄るという事を繰り返していただいて、「こういった組織を作りましょうね」という過程を経たところです。</p>
岩崎先生	<p>同じような形で市の職員がまちづくり協議会の事業に積極的に関わっていくときには、先程の板持さんの話だと、最初は住民として関わるような感じで動かされたという事でしたが、市の職員としての関わりって言うのは桑名市の場合、地域担当職員制度っていうのを導入するという話がありました。そのことについて、大成から来て頂いた方からは、地域担当職員制度は責任放棄にならないかという様なコメントもいただいている訳でありますけども、その点はどういうふうに地域住民として考えたらいいんでしょうか？</p>
板持さん	<p>担当職員制度というのは雲南市も設けています。</p> <p>当初は、担当職員としての関わりじゃなくて、いわゆる部署としての関わりとして、組織形成に関わっていました。</p> <p>その時には、話し合いの場に市の職員も入って、できるだけ情報を提供するという役割を担っていました。例えば、その地域の人口動態はこれからどういう風に変化するのかといったことを、データで提供したりとか、あるいは、どこ</p>

	<p>か先進地域を見に行きたいと言われれば、その情報を探してきて、その場に投げかけさせて頂くなどの情報提供の役割を担っていました。</p> <p>あくまでも、何をどういうふうにするかってことを決められるのは住民の方々の組織でありますので、その関係性を常に注意をしながら支援を行いました。今は、担当職員制度ということで、各地域を受け持っている担当の職員がいます。段階的に変化してまいりまして、初期の段階は、支援という立場でさせて頂いてましたけど、今はどちらかといえば行政の方が支援を受ける場合も多々ありますので、窓口的な機能という段階でございます。</p>
岩崎先生	<p>なるほど。担当職員の方の役割としては、地域の将来のデータを色々示して、そして、地域での、これから解決しなければならない課題を住民の皆様知って頂くためのお手伝いをする。そして、その解決等々を探っていく共通の目標として、まちづくり計画というものを策定するという様な手順になっていくんだらうと思います。</p> <p>名張市の坂本さんに対する質問で、地域ビジョンを決めるのに一年半かかったとの事、その間の行政支援、これは地域担当職員の話もあるだらうと思いますが、その支援はどの程度役に立ったんでしょうか？</p> <p>また先ほど楽しかったとおっしゃってみえたけれども、策定作業はどんな時に楽しかったとお感じになられたんでしょうか？というお尋ねがございましたけどいかがでしょうか？</p>
坂本さん	<p>地域ビジョンを策定する時に、まず市からサポートをしてもらった事は、常套手段なんですけれども、アンケート調査をやることに対する支援です。アンケート調査をすることを決めてから、じゃあ、どんなことから聞いたらいいのか？どんなフォーマットでアンケート用紙作ったらいいのか？どういう方法でまとめて解析したらいいのか？等を市の方からサンプルを頂いてやりました。その辺のサポートをしてもらいました。</p> <p>実際にアンケートをしたり、集計をしたり、作業自体は我々がさせてもらいました。</p> <p>楽しかったっていうのは、地域ビジョンを作ることも私は楽しいと思った。みんなは嫌だったかもしれないですが、地域ビジョンを作るのが目的なんですけれども、アンケート調査とった後、会議室で役員だけがビジョンを作ったらダメだと。これは地域住民みんなで作るんだと。だからお祭りにしよう。地域ビジョンを作るんだよ、っていうことをもっともっとみんなにPRして、みんなで作ろう。だから、みんなで見出し出して、アンケートの答え出して。</p> <p>それから、「あったらいいな提案」を出してってやったんですよね。それは小学校5~6年生全員と、中学校2年生全員に学校を通じてお願いしたんですね。それで、子供達からいっぱい意見出てくるし、大人たちからも意見が出てきました。それを集計しつつ、提案自体を公民館に短冊のようにしていっぱいぶら下げておいて、1か月間そこに展示して来場者に人気投票をしていただいたんです。赤いシールを置いておいてペタペタ貼ってもらうようにしました。</p> <p>そういったプロセスを楽しもうという事で、みんなで作らあげた地域ビジョン</p>

	<p>なんだよという事を理解して頂くようなやり方をとりました。それが私自身楽しかったですね。</p> <p>最初の話で楽しかったって言うのは、こういう活動そのものをやっている人達の顔見ていたら、みんな清々しい顔しているんですよね。どんなイベントをやるにしても、やってみるまでは敷居が高いというものの、やってみたら結局面白いやんかっていう人がほとんどなんです。それで楽しんで頂いているのかなってというような思いです。</p>
岩崎先生	<p>やってみたら楽しいんじゃないかっていうお話ではあったわけではありますが。とは言え、やっぱり市民に対して負担になると最初は感じるよね。それから危機感を煽るものになるんじゃないのか。</p> <p>それを楽しいと感じるのは地域の住民でありますけども、市としてどれだけの危機感、それから覚悟を持って、このプロジェクトを進めているのか？という覚悟のほどを聞きたいというご質問も市長に対して頂いているんですけどもそこについてはいかがでしょうか？</p>
桑名市長	<p>市の覚悟といいますか、やはり、人口が減っていくとか高齢化というのは、なかなか普段暮らしている中で見えないと思うんですよね。なかなか見えませんが、我々はデータで持っていますので、高齢化の恐ろしさというのをまじまじと感じながら仕事をさせてもらっています。</p> <p>その中で、ちょっと言葉がおかしいっておっしゃる方もいるかもしれませんが、「国破れて山河在り」という言葉がありますよね。国や自治体が仮に壊れたとしても地域は残っていくものだとは私は当たり前のように思っていますね。地域で暮らしている人は、国が破綻したり、自治体が破綻しても、そこでの暮らしは続いていく訳ですよね。</p> <p>我々はそれをしっかり踏まえた上で地域が元気だから、ここの自治体はダメかもしれないけど、この地域の人たちがいるから地域が元気だ、みたいなことが一番大事なんじゃないかなというふうに思っています。</p> <p>もっとも、桑名市が破綻するとかそういう話ではなくて、国や自治体にさまざまな困難なことが起きようとも、そこでの地域の暮らしは「地域の人たちが支えているんだ」ということが私は一番大事な事ではないかというふうに思っています。自治体の危機感というよりも、地域の方が今一つなかなかまだ危機感というところまでいっていないんじゃないかというふうに思っています。そこは我々も丁寧に今こんな状況だっというふうな話をさせて頂きながら、そしてみんな危機感の中にもいながらも、とにかく楽しくってというのがプレイヤーを増やしていく中で本当に大事だと思いますので、そういう形でプレイヤーを増やし、そして地域ことを地域でやれるような体制を作っていただきたいなというふうに思っています。</p>
岩崎先生	<p>はい。桑名市としての市長さんの覚悟の程を、今お伺いしたわけではありますが、当然のことながら楽しい地域活動というものをみんなで作れる仕組みって言うのが、まち協だっというふうに私も思っております。</p> <p>その先輩のそれぞれの市の方々にお伺いしたいんですけども、こんな楽しい</p>

	<p>活動を課題解決するために地域でやっているよというような事例で何かお気づきのもの、今ご披露したら楽しいかなっていうものがあればお話しいただきたいんですけど。</p> <p>例えば梶本さん、そんな事例として何かご紹介頂けるものありますでしょうか？</p>
梶本さん	<p>桔梗が丘の坂本さんも子供さんの取り組みから始めてくださったところではあるんですけども、名張市の中で、学校の中に地域の方が入ってくれているような事例があります。</p> <p>例えば、家庭科の時間であれば、ミシンの授業をするにあたって先生お一人では生徒一人にかかってしまって、あとは全然手が回らないってというようなそんな課題が地域にあった中で、地区の方で家庭科が得意な方が、それこそ岩崎先生のお話にもありましたけれども、地域の方が学校の先生の手助けに入る、そんな地域がひとつあります。一年の間に 1,700 程の授業に地域の方が入っています。例えば、プールの授業であるとか。</p> <p>また、そういう地域の活動を目の当たりにした子供たちが今度は（小学校の時にそういう活動をされているんだけど。）中学校になった時に、自分達も担う側になりたいという子供たちが出てきました。高校生になっても、そういう子供が増えてきています。</p> <p>例えば、秋に市民センター祭というのをするんですけども、祭を運営する側に子供達がなっている、そんな地域もあります。また、この前の 10 月 22 日の台風の時なんですけども、地域では災害対策本部という事で、市民センターを拠点に避難される方がいらっしたんですね。</p> <p>そこの地域では、子供たちが避難者の受け付けをする、避難者の援助をする、そういうような取組みに変わってきていると。ですので、仕事をリタイヤされて一生懸命まちづくりをして頂いている方が、10 年経って、次の世代を担う子供たちが出てきている。すごく有り難い取組みだと思うところでございます。</p>
岩崎先生	<p>ありがとうございます。板持さん、どうでしょう？</p> <p>ご紹介頂けるケースがあれば。</p>

板持さん	<p>事例はたくさんありまして、全く地域によってそれぞれ創意工夫なんですけども、簡単なところでいきますと、子供たちを地域全体で育てましようっていう機運が高いところがあります。</p> <p>例えば、小学校の草刈だとか大変なので、かつては学校行事として学校だけでやっていたものを住民総出でやりましようということですね。また、その地域には保育園がないので、自分達で保育園を作ってしまったましようという事で、保育園を作って、それが認可保育園になりました。今は認定こども園になりましたので、行政の方でそれを引き継いで運営しています。もし、その地域で、保育園をやっていないければ、行政としては住民の人口動態からしますと、そこには今も保育園はおそらくないと思います。しかし、結果的に住民の方々がされていたことによって、今もその保育園というものがその地域に残っているところもあります。</p> <p>他に、細かなものでいいますと、先日の選挙で投票管理人さんは各地域から推薦頂く形をとっているんですけど、その中で素晴らしいなと思った事例を紹介いたします。</p> <p>今、18歳以上に投票権がありますので地元の高校3年生を立会人として推薦ましようという事で地域の方から推薦がありまして、実際に立会人をされました。この発想はなかなか行政の方からは発想として出にくいかなと思ってましまして、まさに地域ならではの発想だと思います。その他にもたくさんありますが、挙げればきりがないので。</p>
岩崎先生	<p>色々今までは行政任せしていた事を、少し地域で考えてみたら結構面白い事がある。色々楽しんで出来るネタを地域で引っ張り出してくるって言うのがまちづくり協議会での地域まちづくり計画であるとか、構想を立てていくプロセスでもあり、それを実施していく過程での楽しみの見つけ方だろうと思います。基礎的な情報を確認しておきたいと思います。</p> <p>多度地区の方から「雲南市ではコミュニティスクールの取り組みとしてどのようにされていますか？」というご質問を頂いております。</p>
板持さん	<p>元々、コミュニティスクールの導入には積極的ではなかったんですけど、6割ぐらい今は導入をしています。準備段階が2年間ありまして、3年目に立ち上げをするということで進めております。コミュニティスクールは地域が学校を運営するということで、昔からそのような形での運営をほとんどの地域でとっていたんですけども、コミュニティスクールを制度的に導入するという事で進めております。そういったことから、今、教育関係との関わりは非常に大切になってきております。行政機関からしますと、教育関係部署も一緒になって地域づくりは進めていますし、福祉部局も同じです。防災関係も一緒に連携しながら進めるという形をとっています。</p> <p>地域関係の取り組みを通じて行政の動き方を変えないといけないという点で、横断的な関係を築きやすくなるというのが特徴かと思います。</p>
岩崎先生	<p>なるほど。</p> <p>そういう中で人口が減っていく、子供が減っていくという事になると、その核</p>

	<p>となるべき小学校、中学校というものの統合を考えていくっていうのも一方はあるんじゃないだろうか。そうすると、それって今回のまちづくり協議会の形成に対してはマイナス要因と言いますか、そういう形になっていくという事になるんじゃないですか？と言うご意見も頂いているんですけども。これに対して桑名に即してという事で市長さんお願いできますか？</p>
桑名市長	<p>小中一貫校の話も、今桑名の方でもだいぶ動きつつあるような状況になっていますが、それがマイナス要因になるかと言うと全然別の話かなっていう風には思っています。逆に言うと、そういうものをきっかけに地域に目を向けなくちゃいけないと思う人が増えてくれたら、ありがたいなと言うふうに思うところがあります。</p> <p>今、特に多度地区をモデル校として小中一貫教育を進めていこうという事を皆さんにも発信させて頂いています。小中一貫というのは、何も多度地区だけでやるということではなくて、全市的に行うということなんですよね。小中一貫のモデル校を作る、学校を作るという話と小中一貫教育をするというのは別の話なので。小中連携して今の建物のまま、9年間の一貫教育プログラムを作り、子供たちを9年間で育てるといような方向性を全市的に打出そうと今、教育委員会が考えてくれています。それが、たまたま多度地区はモデル校として、今ある小学校、中学校を1つの場所にして、一体型の教育施設を作ろうという話なので、ここはまた別の問題ではないかと思っています。おそらくこの小中一貫の中で、コミュニティスクールの話は大きく出てくることだと思いますし、我々とする板持さんが最初に少しお話頂きましたが、生涯学習や、地域包括ケアシステム、コミュニティスクール、防災の部分は地域一帯で、みんなで取り組むことじゃないのかなということが、おぼろげながらといいますか、そういう形になってくると思っております。そういったことから小中一貫教育とまちづくり協議会は相反するものとは私たちは思っておりません。</p> <p>より良い形で地域に目を向けるきっかけにしてもらえたらなと思います。</p>
岩崎先生	<p>コミュニティスクール、小中一貫を考えてく中で、このまち協の話というものも、それを考える場としてまち協っていうのが出てくるんじゃないかって言うような話でありましたが。</p> <p>これは在良にお住いの男性の方からであります。地域に任せる体制が桑名では出来ていないというのは、今思うところだ。地域のみで考えてくださいって言うんじゃないかと、他の事例にもあるような条例っていうのを制定すべきなんじゃないか。そういうようなご意見を頂いているんですけど、これについては市長さん、どういうふうにお考えでしょうか？</p>
桑名市長	<p>今日は他の市でもいろいろ条例があった上でまちづくり協議会進めているっていうのがあって、こういうお話になるのかなと思うんですが、私自身は条例に縛られて動くというよりも、まずは自主的に地域の課題を解決していけるような体制を作っていこうっていう機運が出てくるのが大事かなって思います。ただ、その中でやはり条例がないとそもそもこういう形が作れない等の問題が出てくれば条例制定っていうのも1つの案として考えなくではいけない</p>

	<p>というふうに思いますが、今それがないと動かないということでもないのでかなと私は思っています。</p>
岩崎先生	<p>条例をまず作って、それから動くというより、むしろ動きを見ながら条例が必要であれば、それを条例として設置根拠を持っていくという様な動きもできるんじゃないのかと、そういうお話だったかと思えます。</p> <p>実は、すでに時間を6分延長しております。</p> <p>出来れば、もう少ししたら終わらなきゃいけないという事もあります。</p> <p>冒頭、申し上げましたとおりに、まだまだたくさん質問が残っております。</p> <p>この質問につきましてはできるだけ、中には市としては答えづらいなというような質問もございますが、ホームページで後日、市としての考え方を示させて頂くことにしたいと思います。</p> <p>最後になりますが、どうでしょう？これからの桑名市でのまちづくり協議会の取り組みに向けて一言でいうと何がポイントですか？多分、一言では難しいと思うんですけども、御三方の経験から言って、こういう点に注意して、あるいはここに重点を持って、これからのまちづくり協議会の形成に向けて地域の皆さんにアピールしたいというのがございましたら、是非。板持さんからいきましょうか。</p>
板持さん	<p>なかなか一言では難しいんですが、ちょうど今のこれからということできますと、できる範疇でいいということがあります。なにも義務的にすることではありません。できる範疇でやればいいと思えば、非常に気は楽になりまして、逆に言いますと、ゼロベースからやりますので、そこからマイナスっていうのはないはずですよ。</p> <p>やればやるだけプラスの方向に行きますので、そうすると非常に楽しくなってきます。これは考え方の問題だと思うんですけど、自分達で好きなように出来るよと思えば、普段日常的に感じていたような、あれはこうした方がいいんじゃないかっていうことが実現しやすくなっていくという意味で楽しんでやっていくことが大切かなというふうに思います。</p>
岩崎先生	<p>はい。じゃあどうでしょう？梶本さん。</p>
梶本さん	<p>すごく難しいんですけども、日々過ごしている中の身近な課題って言うのを、それぞれが見直す良いきっかけになって頂いたらいいのかなって思っております。自分一人ではなかなか課題解決できにくいことを解決するために地域があって、区や自治会があって、またさらにその上の組織がある、と言う身近なところから始めていくような思いで進めて頂ければどうかなと思うところでございます。以上です。</p>
岩崎先生	<p>坂本さんどうでしょう？何かお伝え頂ければ。</p>
坂本さん	<p>私あっちこっちでこういうプレゼンをさせて貰っていて、そのいくつかの資料を手元に持っていて、最後のページを開いています。その中でちょっと参考に桔梗という言葉、桑名という言葉に変えて言わせてもらいます。</p> <p>「全員参加で考えよう桑名の未来」</p> <p>それはどういうことかと言うと、縁あって桑名に住まう者同士、楽しく幸せに</p>

	<p>未永く暮らしたい。One for All.みんなの為にできる事、共に探していきましょう。それから、</p> <p>「誰かがやってくれるだろうと言うのはダメ。それよりもみんなの為に自分は何ができるだろうというのを考えて下さい。」</p> <p>それから、</p> <p>「50歳を過ぎたら地域社会に恩返ししましょう」、「手弁当で汗をかく」、「会議室を飛び出して、現場で現物を見て現実的に考える。三現主義で行きましょう」</p> <p>最後は、</p> <p>「必要なのはやっぱり人です」</p> <p>以上です。</p>
<p>岩崎先生</p>	<p>他にも会場からいろいろご質問を頂いています。</p> <p>是非、市長さんにも一言という話でもあるんですが。</p> <p>大山田地区にお住まいの方から、「全員参加型の市政って言うのを目指したいっていうときに、やはりこの会場の人数は少ないんじゃないのか。もっと多くの市民に参加してもらうためにはどうすればいいんでしょうか?」というご質問を頂いています。こういう場がアピールの場になればいいなということで始めた部分ではありますが、市長さんのお言葉を頂きたいなと思います。難しいかもしれませんが。</p>
<p>桑名市長</p>	<p>本日の参加者を、どう捉えるかは人それぞれかと思われましても、いろいろなシンポジウムに出させてもらうと、15人くらいのお客さんの前でこちらが5人の会とか結構ありますので、今日はそれなりに興味を持っていただいている方が多いのかなと私は思っています。これは捉え方なので、より多くの人に来てもらえるようにしなきゃいけないというのがありますが、やはり人だなということ、今日聞かせてもらいまして、感じました。その中で、例えば自治会の活動を頑張ってもらっている方、本当に頑張ってもらっていて、すごく大変ではありますが、なかなかこの次を受けて頂ける方がいないんじゃないか、そういうところまでできているのかなということも感じています。その中で、何度も言いますが、地域のプレイヤーを増やすのがすごく大事で、その為には今プレイヤーやっている人をスカウトして呼んでくるという方法もありますけど、育成するような視点も要るんだなということ、子供たちがまさにまちづくりの担い手になってきていると伺って感じました。PTAを辞めた後の人たちが、例えばいろんな活動に参加し続けるとか、そういう姿勢も大事だなと感じております。地域をこれから耕して、いろんな人のネットワークをもう一回作り直すというか、たくさんの網目を張る、蜘蛛の巣みたいに張るといような事が大切なのかなということを思いました。これは市役所で出来ることには限界があると思います。</p> <p>いろんな地域にこんな人あんな人いるよって一生懸命人を探すという事は、やはり地域の人の方が本当に得意だと思いますので、これを是非、今日来られたみなさんと一緒になって考えて、繋げていくというようなことを一緒になって</p>

	<p>やれたらなというふうに思っています。</p> <p>10年後を見て、今この桑名で育っている子供たちがまちづくりの方に繋がっていくという施策も含めて、しっかりとやっていけたらなというふうに思いません。今日は、有難うございました。</p>
岩崎先生	<p>有難うございました。</p> <p>私からは、このレジメの最後の部分に私の言いたいような事って言うのも書いてございますので、私の方からは多言は時間も過ぎておりますのでしない様にしようと思っています。</p> <p>今日、このシンポジウムが、桑名市におけるまちづくり協議会の、まさにキックオフ、起点であって欲しいというふうに思いますし、せっかく御三方に来て頂きお話を頂いたこと、たくさんいろいろとこういうふうに考えればいいのかということも、お気づきになった部分があるかと思えます。</p> <p>それらを活かしながら皆さん方、もう一度、地域のこれから5年後10年後にどんな社会になっていくのか、そして、その時に市役所でやってもらわないかん事はこれだけでも、それをやってもらう為には、私たちが出来ること。それは、講演でも申しましたとおり、かつて私たちが、40年50年前はやっていたな、そして、それが少しの金になる。また、大きな生きがいを得られて、それが、今、この時間にテレビを観ているようなお父さんたちを地域に引っ張り出すような、そういうもののかたまりになっていかないか。</p> <p>そんな観点で、是非、まち協の立ち上げと言うものを考えて頂ければと言う事を最後に申し上げまして、この今回のイベントがそのキックオフになれば幸いです。時間が過ぎていきますので、この辺りでお開きにしたいと思えます。</p> <p>結局のところ、質問に答えられたかなというのがだいたいこれぐらいです。</p> <p>で、実はまだ、多くの質問票が残っています。ごめんなさい。</p> <p>これらについては、市のホームページで答えられるものについては、お答えしたいと思います。それでは、この辺りでシンポジウムについてはお開きにしたいと思えます。どうも、有難うございました。</p>

講演会 参加者 148名